

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0572212264
法人名	有限会社ワイケイ企画
事業所名	グループホーム愛寿苑
所在地	山本郡三種町鶴川字無頭57-1 (電話) 0185-85-2800
評価機関名	財団法人秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1-1
訪問調査日	平成21年12月9日

【情報提供票より】 (月日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	14人 常勤 9人, 非常勤 5人, 常勤換算10.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 1階建ての ~ 1階部分
------	-----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (11月20日現在)

利用者人数	14名	男性	1名	女性	13名
要介護1	3名	要介護2	8名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.5歳	最低	72歳	最高	89歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山本組合総合病院 ・ 柳谷内科クリニック ・ 八竜歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の高齢者の力になりたいとの思いで、グループホーム・デイサービスとして事業を開始し、後にデイサービスの部分を改装し、2ユニットのグループホームとして事業を実施している。職員を育てる取り組みに力を入れており、地域の有志で「しらかみ認知症研究会」を立ち上げ、相互訪問によりお互いの気付きを促している。特に各ホームのいいところだけでなく、その他の気付いたことを記録し、ホーム同士で話し合う場を設けるなど、サービスの質の向上へ向け積極的に取り組んでいる。職員も質の向上を常に意識し、前向きに取り組んでいる。相互訪問へも意欲的に参加する等、今後の取り組みに期待できるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、地域とのつきあい・金銭出納の確認・災害対策などが改善課題として挙げられていたが、地域行事の運営や、家族からの書面による確認、マニュアルや連絡網の整備など、適切に改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で行い、日々の取り組みを振り返る機会として活用している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	自治会長、消防署、警察、行政担当者、家族をメンバーに開催し、利用者の生活状況や、ホームの運営状況などを報告している。また、この他にも行政とは、空き状況の情報提供者やパンフレットを窓口においてもらうなど、良好な関係を築いている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月1回の苑だよりで日々の生活状況等を報告している。また、電話や来訪時に意見、要望を聞くように努めている他、苦情箱を設置するとともに、重要事項説明書に第三者機関として、行政の窓口、国保連などの連絡先を明記し、利用者・家族へ説明している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域行事へ運営側として参加したり、コミュニティセンターの花壇の手入れも行うなど、積極的に地域とのかかわりを持っている。また、ホーム主催の夏祭りに地域の方を招待するなど、地域の方と交流する機会の確保に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者、職員が話し合い、事業所独自の運営理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務室、各ユニットに掲示し、常に理念を意識して支援している。職員間での話し合いにより掲げられた理念であり、十分に共有されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域行事へ運営側として参加したり、コミュニティーセンターの花壇の手入れも行っている。また、ホーム主催の夏祭りに地域の方を招待するなど、地域の方と交流する機会の確保に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組み、日々の実践を振り返る機会として活用している。外部評価においては、課題として挙げられた事柄について、改善へ向け努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、消防署、警察、行政担当者、家族をメンバーに開催し、利用者の生活状況や、ホームの運営状況などを報告している。	○	平成18年度の介護保険制度改正後、2回のみ開催となっているため、今後は、定期的開催し、ホームの取り組みや利用者の状況等を報告する機会を確保することを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの空き状況を提供したり、パンフレットを窓口においてもらうなど、ホームの周知に努めている。また、運営上の課題なども相談できる関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の苑だよりで日常の暮らしぶりなどを報告している。金銭の出納についても、書面にて家族へ報告し、確認を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や来訪時に意見、要望を聞くように努めている。また、苦情箱を設置するとともに、重要事項説明書に第三者機関として、行政の窓口、国保連などの連絡先を明記し、利用者・家族へ説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	個々の利用者の判断能力に応じた対応を心掛けており、影響を抑える配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、テーマを決め、外部から講師を招くなど、積極的に行われている。外部研修は、主に管理者の参加となっており、月1回のミーティングで口頭での報告となっている。		研修の報告は、口頭だけではなく、書面で報告し、他の職員へ内容を周知するよう努めることを期待する。また、参加者についても、段階的に受講できるよう、体制を検討されることを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の協議会、地域の協議会へ加入し、情報交換等を行っている。また、これとは別に、近隣有志で集まったホーム同士で相互訪問を行い、気付いたことを話し合うなど、質の向上へ向けた取り組みを積極的に行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	利用前には、管理者・職員が利用希望者の自宅へ訪問し、十分な説明を行っている。また、希望する場合は、ホームを見学していただき、場の雰囲気を感じてもらうなど、納得して利用できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者・介護者等関係ではなく、人生の先輩として学ぶことも多く、互いに支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々の思いの把握に努め、できる限り意向に沿うよう、努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員からの意見、利用者からの要望により介護計画を作成している。家族へは、できた介護計画の同意となっており、家族の意向は反映されていない。	○	本人だけでなく、家族の意向も確認し、それらを反映させた介護計画となるよう改善されることを期待する。また、介護計画に短期目標が設定されていないものもあるが、長期目標から生活課題の改善へとつながる重要な部分であるため、個々に合わせた短期目標を設定されることを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6か月ごとの定期的な見直しを行っている。また、状態に変化が生じた場合は、その都度、介護計画を作成しているが、家族へは見直し後の同意のみとなっている。	○	定期的な見直し時はもとより、随時の見直しにおいても、家族の意向を確認したうえでの介護計画の作成を実施されることを期待する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居前のかかりつけ医を大切にし、受診の際も付き添いを行うなど、柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関として提携している医療機関はあるものの、入居前のかかりつけ医の受診を基本とし、適切に医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	定期的にかかりつけ医を受診し、医師から家族へ状態を説明していただいている。その内容は記録し、ホームでも方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねるような対応等はしていない。個人記録の取り扱いも職員と誓約書を交わし、適切に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの決まりごとや日課は決まっておらず、利用者の思い思いの過ごし方を支援している。居室で過ごす方には、定期的に巡回し、安全の確保にも努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を決めた食事ではないが、畑で採れた野菜や、近所からの差し入れなど、旬の食材を使用した食事となっている。準備も利用者と一緒にいき、職員も同じテーブル食べるなど、楽しい雰囲気での食事となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	入浴日は決めておらず、利用者の希望による入浴を支援している。入浴前には健康チェックを行い、安全に入浴できるよう、配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれに、畑仕事や裁縫など、日課としている楽しみごとがあり、それに合わせて支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節ごとに遠方へ出かけているほか、日常の利用者の希望により、買い物などへの外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中玄関には鍵はかけておらず、外出する利用者には付き添うなど、見守りに努めている。また、夜間のみ各居室の窓に設置されているセンサーを作動させ、安全に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署員の立ち会いのもと、防災訓練を実施している。そのうち1回を夜間を想定した訓練としている。また、防災に関するマニュアル、連絡網などを整備し、災害に備えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容のカロリー等を大まかに計算しているが、定期的に栄養士から食事内容を確認してもらい、栄養のバランスに配慮している。また、水分量、食事摂取量などを記録し、状態の把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間であるホールは、利用者の憩いの場であり、過度な装飾はなく、家庭的な雰囲気となっている。また、不快なおい等もなく、採光も程よく調整されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の使いなれた家具等を持ち込み、安心して生活できるよう配慮されている。		

※ は、重点項目。